

森を！自然を！

未来へつなぐグリーンプロジェクト

長野県 小谷村

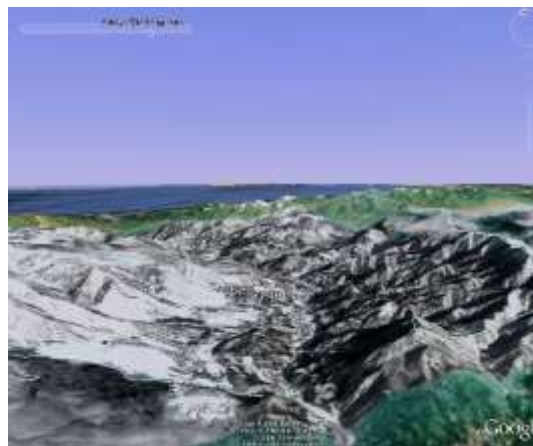
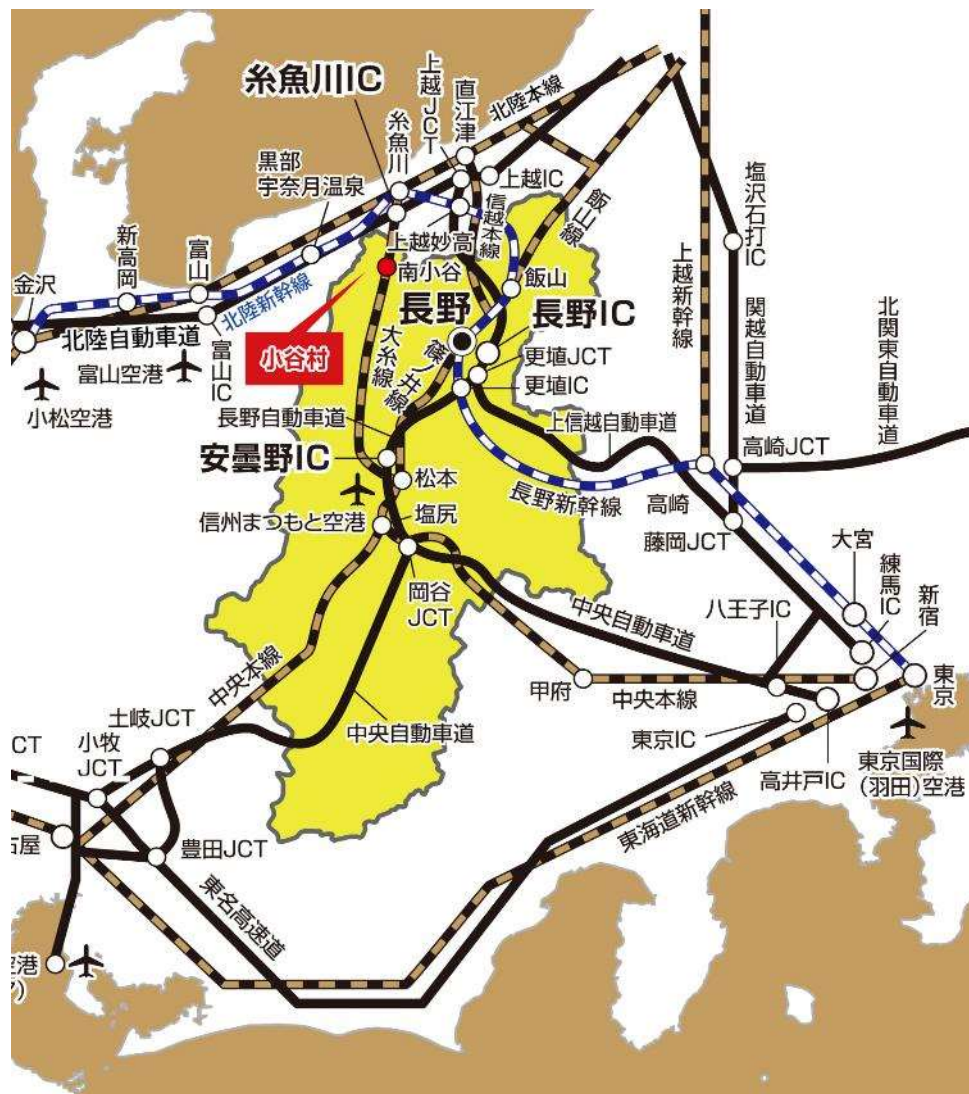
長野県小谷村の概要



長野県北安曇郡小谷村
東西14km 南北20.5km
海拔200m~2,769m

村の面積 267.91 km²
森林面積 88.3%
農地面積 2.7%
世帯数 1,203世帯
人口 2,717人
(令和3年7月31日現在 外国人含む)

観光入込客数及び消費額
令和2年度 533,200人
3,082,330千円
令和元年度 822,900人
4,938,180千円



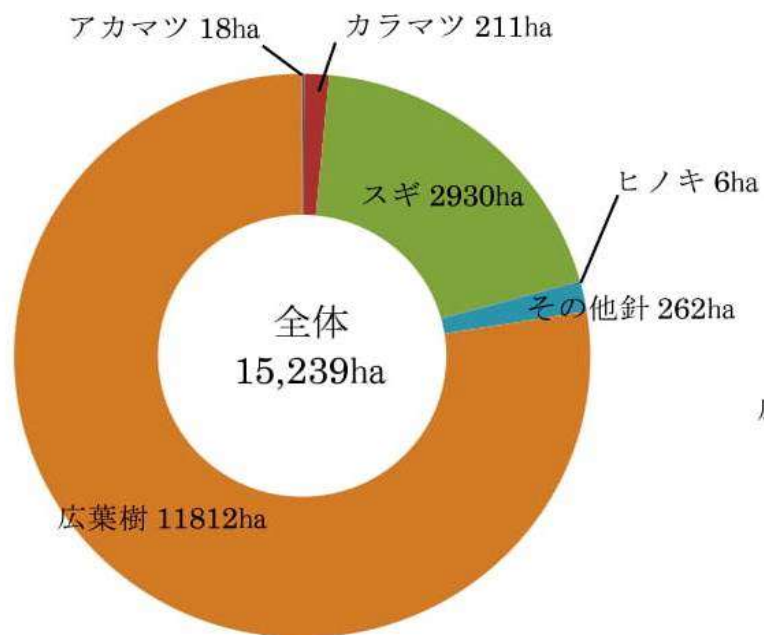
長野県小谷村の概要



豊富な天然の森林資源

◆樹種別面積割合は、スギ 19% (2,930 ha) と広葉樹 78% (11,812 ha) の割合が高く、長野県民有林の割合と比較するとアカマツやカラマツが極端に少ないのが特徴です。

小谷村民有林樹種別森林面積



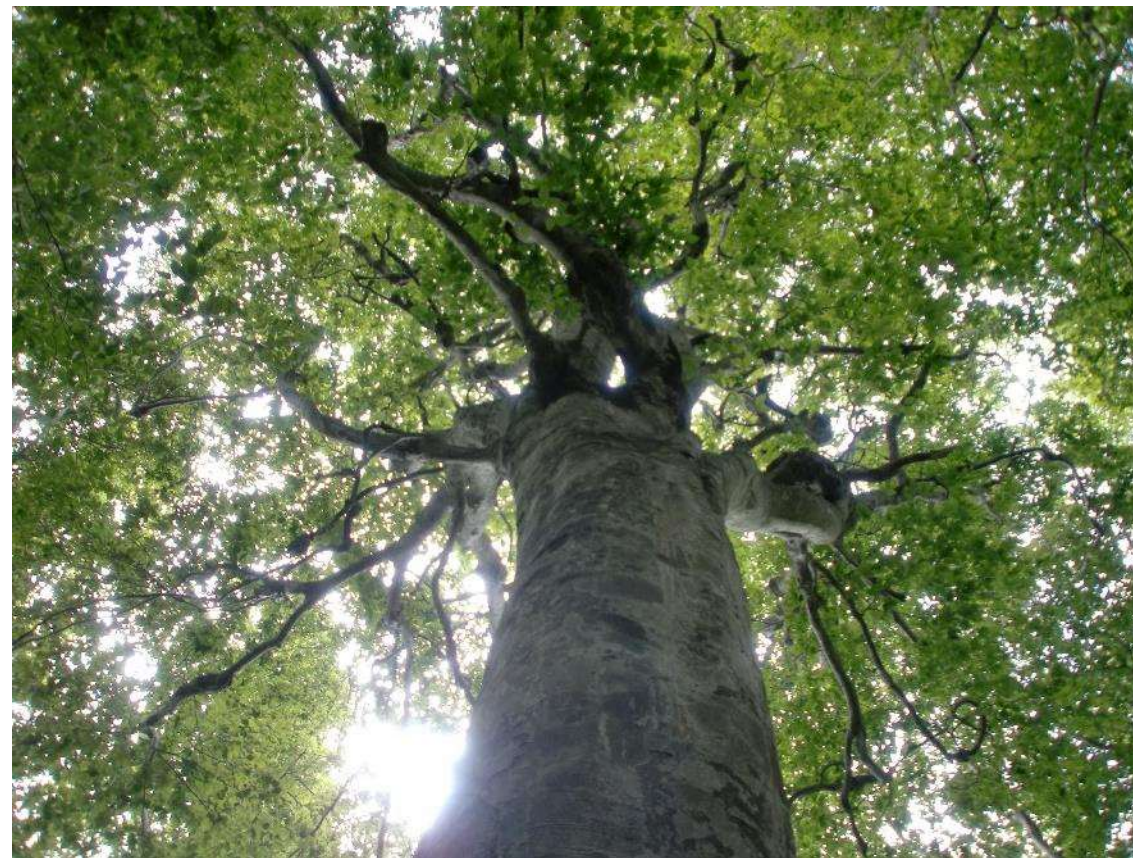
長野県民有林樹種別森林面積



小谷村の豊富な森林資源



1,500m以上に群生する
オオシラビソの森



樹齡200年を超えるブナの巨木

森林資源の活用



癒やしと安らぎ

平成18年に森林セラピー基地の認定を取得

森林に触れることで、リラックス効果と
ストレス解消が図れるよう、専門のインス
トラクターを養成し、顧客の対応を行う。

セラピーロードとして、森林環境を満喫で
きる道もあります。



森林資源の活用



森林の体感と教育

森林は、多種多様な機能をもつ。
その特長を活かした教育や体験活動を実践しています。
子ども達が自然に触れあうことで、多くのことを学び、自らが行動していく体験ができます。
森で生息する生物も、豊かな環境があってからこそその産物です。



森林資源の活用



貴重な食と生物

森林内には多くの魅力的な食が発掘される。
芽吹いていく葉っぱと共に、山菜類が顔を出し、
秋には実がなり、キノコが輝く。
そんな山の幸の宝庫でもある小谷村です。



これからの目指すべき環境づくり




ゼロカーボンを目指して

令和2年3月に小谷村は、気候非常事態宣言を行い、ゼロカーボンを目指した取り組みを進めることを表明しています。

ゼロカーボンを目指す取り組み

- 1 二酸化炭素排出量の削減
→ 省エネと再エネ
- 2 資源としてある森林機能の活用
→ 森林の二酸化炭素吸収量向上



小谷村気候非常事態宣言

世界や日本の各地では異常気象が増加し、本村でも酷暑や少雪など、これまでに経験したことのない事態に直面しています。

環境省では2017年に「STOP THE 温暖化」を発表し、現在のように温室効果ガスを排出し続けた場合、21世紀末には気温の上昇や、世界中の雪氷の減少、短時間集中豪雨の倍増などによる、深刻な気候への影響を予想しています。

2015年に気候変動の脅威に世界全体で対応するための国際的な枠組みである「パリ協定」が採択され、最終到達としての「脱炭素社会」を掲げました。世界中で抜本的な対策を講じ、それを継続的に推進することが重要です。

これまで恵まれた豊かな自然と共存し、幾多の災害を乗り越えてきた当村だからこそ、現在の気候変動が人類、社会、世界にとって著しい脅威であることを村民全員が認識し、村の魅力ある四季の移り変わりが失われることの無いよう、ここに気候非常事態を宣言し、豊かな自然環境を次世代に引き継ぐため、**2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロ（ゼロカーボン）を目指します。**

- 1 気候変動の現状について村民や村内事業者と情報を共有し、協働して気候変動対策に取り組みます。
- 2 省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの自給率向上を目指します。
- 3 自然環境を守り温室効果ガスを抑制し、豊かな森林を生かした村づくりを実現します。

令和2年（2020年）3月16日

小谷村長 **中村 義明**

省エネと再エネに向けて



省エネの取り組み

みんなで取り組んでいく活動
電気自動車購入・バイオ燃料利用
太陽光利用など

再エネの取り組み

小水力・地熱・温泉熱・太陽光など新たなエネルギー確保
地域にある利用可能なエネルギーの活用

二酸化炭素吸収量向上に向けて



森林の多い小谷村

1年あたりのおおよその**二酸化炭素吸収量**

単位:t/ha

	20年生前後	40年生前後	60年生前後	80年生前後
スギ	17.0	8.0	4.0	2.0
広葉樹	5.1	3.7	1.1	0.4

※1ヘクタールに1,000本の立木があると仮定した場合

小谷村の森林は、60～80年の木が86%にも及ぶ！

これからの目指すべき環境づくり



小谷村ゼロカーボン

小谷村内の森林における二酸化炭素吸収量の概算

樹齢	樹種	面積	20歳級以下の割合	1年あたりのCO ₂ 吸収量 [t-CO ₂ /ha・年]	二酸化炭素吸収量 [t-CO ₂ /年]	合計 [t-CO ₂ /年] 自然の吸収量	小谷村のCO ₂ 排出量 [t-CO ₂ /年] (2017年) ※
60年生	スギ	3,843ha	86%	4.0	13,220	29,114	23,750
	広葉樹	16,801ha	86%	1.1	15,894		
80年生	スギ	3,843ha	86%	2.0	6,610	12,390	
	広葉樹	16,801ha	86%	0.4	5,780		



60年生:80年生1:1として

現在の森林の二酸化炭素吸収量 **20,752t** (小谷村だけでは、約3,000t削減が当面の課題)

森林再生と今後の活用



森林の再生

森林再生、新しい若い木を育てていく取り組みを目指す

みんなで育てるカーボンゼロの森づくり(森林の更新)

伐採木の利用(薪やチップ)し、省エネ設備への利用促進

森からの副産物の有効利用(森林資源の付加価値)



Jクレジット制度なども考慮し、環境に配慮した取り組みを進めていく！

みどりのプロジェクト



将来を考え、貴重な森林環境を

触れて守る。活用して守る。理解して守る！

後生にも残したい貴重な資源がたくさんあります。自然の恵みと森林のもつ機能を理解してもらう環境を作り出す活動を目指していきます。

日本みどりのプロジェクト会員としても、事業趣旨に賛同し、環境づくりの様々な取り組みを考えて、実践していきたいと考えます。



